

3 社会福祉施設におけるウェルシュ菌の 汚染実態調査について

項 目	内 容
テーマ	社会福祉施設におけるウエルシュ菌の汚染実態について
調査目的や背景	<p>平成16年度に、管内の高齢者施設2施設でノロウイルスの集団感染が発生した。その際の調査で、エンテロトキシン産生性ウエルシュ菌（以下、「ウエルシュ菌」という。）が、施設の拭取り検査で陽性率37.3%、入居者、調理従事者、介護人等を対象とした検便で陽性率23.0%と、高率に検出された。</p> <p>このため平成17年度に、他の施設（高齢者施設3施設、保育園1施設、事業所1施設）の汚染実態調査を行ったところ、拭取り検査の陽性が1.3%、検便では1.0%とウエルシュ菌の検出率は低かった。</p> <p>以上のことから、平成16年度の事例は、当該施設固有の問題であったのかを検証するため、平成18年度は改めて当該2施設について、検査検体数を増し、ウエルシュ菌の検査を重点的に実施した。</p>
調査結果	<p>検査の結果、入居者のふん便からウエルシュ菌が検出され、陽性率は26.7%であった。また、拭取り検査の陽性率は11.0%であった。検出された血清型は施設Aでは拭取りではTW2型が検出され、入居者からは他の血清型が検出され、TW2型が検出されたのは1人のみであった。施設Bからは全て同一の血清型（TW47型）が検出された。両施設とも拭取り検査から、ふん便由来の汚染が疑われる箇所での検出が目立った。</p> <p>今回の調査においてウエルシュ菌は入居者のふん便由来で施設内の環境を汚染していることが強く示唆された。施設Bに関しては16年度に検出された血清型と同一のものであるため、継続汚染の可能性も考えられた。</p>
対象業種	集団給食施設
今後の取組みの方向性	<p>今回の調査で、社会福祉施設におけるウエルシュ菌による汚染が示唆された。抵抗力の低下している入居者が施設内でウエルシュ菌に感染する可能性が十分に考えられる。汚染の拡大を防ぎ、食堂や厨房に汚染を持ち込まないように、特にふん便由来の汚染が考えられる施設について、常に重点的に清掃、消毒を行うよう指導していく。</p>
添付資料	<p>○平成17年度社会福祉施設におけるウエルシュ菌の汚染実態調査について上記（調査目的や背景）内容</p> <p>○平成18年度社会福祉施設におけるウエルシュ菌の汚染実態調査について上記（調査結果）内容</p> <p>○特別養護老人ホームにおける環境由来と思われるエンテロトキシン産生 <i>Clostridium perfringens</i> による集団下痢症</p>

2 八王子保健所

社会福祉施設におけるウェルシュ菌の汚染実態調査について（継続）

1 目的

平成16年度（平成17年2月から3月にかけて）に、管内高齢者施設2施設でノロウイルスの集団感染が発生した。その際、エンテロトキシン産生性ウェルシュ菌（以下、「ウェルシュ菌」という。）が、施設の拭取り検査で83検体中31検体（陽性率37.3%）、入居者、調理従事者、介護人等を対象とした検便で74検体中17検体（陽性率23.0%）と、高率に検出された。

このことから、平成17年度に、他の施設におけるウェルシュ菌による汚染を把握するため、高齢者施設3施設、保育園1施設、八王子保健所（対照）の汚染実態調査を行ったところ、拭取り検査で151検体中2検体（1.3%）が陽性であった。また、施設の入居者の検便で45検体中5検体（11.1%）、調理従事者等の検便42検体中2検体（4.8%）が陽性であった。

いずれも、平成16年度と比べウェルシュ菌の検出率は低く、また、アンケートによる行動調査でもウェルシュ菌が高率に検出された理由は明確にできなかった。

以上のことから、平成16年度の事例は、当該施設固有の問題であったのかを検証するため、改めて、当該2施設について、検査検体数を増やし、ウェルシュ菌の検査を重点的に実施した。

2 調査方法

(1) 実施期間 平成18年11月～12月

(2) 対象施設

高齢者施設2施設（以下「施設A」、「施設B」という。）

(3) 調査方法

調理場、入居者の居室等の拭取り検査を実施するとともに、調理従事者や入居者の検便を行った。

ア 拭取り検査

施設の調理場、居室等 100検体（施設A:50検体、施設B:50検体）

イ 検便検査

施設の調理従事者 10名（施設A:5名、施設B:5名）

施設の職員 8名（施設A:3名、施設B:5名）

施設の入居者 30名（施設A:15名、施設B:15名）

(4) 検査機関

健康安全研究センター食中毒細菌研究室

3 検査結果

(1) 施設A

生活環境（施設拭取り検査及び水）の検査において50検体中9検体（18.0%）、入居者のふん便15検体中4検体（26.7%）からウェルシュ菌を検出した。拭取り箇所及び検査結果の詳細は、別添1のとおりである。

ウェルシュ菌を検出した拭取り9検体の内、トイレ（洋式、女性用）関係3箇所からウェルシュ菌が検出されたことは特徴的である。また、洗濯室の汚物洗濯用シンクレバーや、洗濯機内部、浴槽の内側等、ふん便由来の汚染が疑われる箇所での検出が目立った。

血清型の分布は、表1のとおりである。

拭取りで、陽性だった検体全てから TW2 型が検出された。入居者の検便からは別型の TW62 型、TW25 型などが検出された。入居者で TW2 型が検出されたのは 1 名のみであった。

聞き取り調査の結果、検便でウェルシュ菌が陽性であった 4 名は 2 名ずつ同室であった。同室であることと、その血清型の相関は不明である。なお、保菌者は全員健康で、オムツ等の利用者はいない。調理従事者及び職員からはウェルシュ菌は検出されなかった。

表 1 施設 A の血清型分布

①汚染実態調査時(平成18年12月19日、22日実施)

	検体数	ウェルシュ (+)		内訳						
				TW2	TW2,UT	TW2,62	TW62	TW25	UT	
拭取り	調理室	10								
	環境	39	9	23.1%	8	1				
	水	1								
検便	入居者	15	4	26.7%			1	1	1	1
	調理従事者	5								
	職員	3								
合計	73	13		8(61.5%)	1(7.6%)	1(7.6%)	1(7.6%)	1(7.6%)	1(7.6%)	

②集団感染発生時(平成17年3月8日から11日の間実施)

	検体数	ウェルシュ (+)		内訳						
				UT	TW70	TW61,63,UT	TW34,UT	TW65	TW12,UT	
拭取り	調理室	15	0							
	環境	29	13	44.8%	13					
	水	2	1	50.0%	1					
検食	16	0								
検便	入居者	19	12	63.2%	9	1	1	1	1	1
	調理従事者	9	2	22.2%	1					
	職員	26	1	3.8%	1					
合計	116	29		25(86.2%)	1(3.4%)	1(3.4%)	1(3.4%)	1(3.4%)	1(3.4%)	

(2) 施設 B

生活環境（施設拭取り検査及び水）の検査において 50 検体中 2 検体（4.0%）、入居者の検便 15 検体中 4 検体（26.7%）からウェルシュ菌を検出した。拭取り箇所及び結果の詳細は、別添 2 のとおりである。

ウェルシュ菌を検出した拭取り 2 検体は、トイレの便座及び、同じトイレの水栓レバーである。このトイレのレバーはボタン式で、明らかに肉眼で汚れが確認できる状況であり、ふん便由来の汚染が強く疑われた。

血清型の分布は、表 2 のとおりである。

拭取り及び検便から検出されたウェルシュ菌の血清型は、全て TW47 型であった。

拭取りでウェルシュ菌を検出したトイレは、女性用洋式の共用トイレであることと、陽性であった入居者 4 名中 3 名が女性であったことは、保菌者のふん便からトイレで感染が広がった可能性が考えられた。

保菌者は施設 A と同様に、全員健康で、オムツの利用者はいない。4 名とも部屋は異なっている。調理従事者及び職員からはウェルシュ菌は検出されなかった。

なお、この施設では、16 年度にノロウイルスによる感染症が発生した際、調理従事者及び生活環境から TW47 型のウェルシュ菌を多く検出している。

文献によると、過去にウェルシュ菌が多く検出された施設で、その時に検出されたウェルシュ菌と同血清型のウェルシュ菌によって、1 年後に下痢症を起した事例の報告もあり、

今回の施設も、過去のウェルシュ菌が残存していたことも考えられ、大変興味深い。

表2 施設Bの血清型分布

①汚染実態調査時(平成18年12月12日実施)

		検体数	ウェルシュ (+)		内訳	
					TW47	
拭取り	調理室	10				
	環境	37	2	5.4%	2	
	水	3				
検便	入居者	15	4	26.7%	4	
	調理従事者	5				
	職員	5				
合計		75	6		6(100%)	

②集団感染発生時(平成17年2月28日から3月8日実施)

		検体数	ウェルシュ (+)		内訳					
					TW47	TW47,H5	TW47,UT	H5	H5,UT	UT
拭取り	調理室	15	0							
	環境	24	18	75.0%	8	5	2	1	1	1
	水	4	0							
検食		34	1	2.9%	1					
検便	調理従事者	13	2	15.4%	2					
	職員	7	0							
合計		97	21		11(53.4%)	5(23.8%)	2(9.5%)	1(4.8%)	1(4.8%)	1(4.8%)

4 考察及びまとめ

(1) 検便の結果

施設A、Bとも調理従事者及び職員からウェルシュ菌は検出されなかったが、2施設の入居者30名中8名(26.7%)からウェルシュ菌が検出された。いずれの施設も26.7%の検出率であった。これは、平成17年度に実施した他の施設での検便のウェルシュ菌の検出率(11.1%)より高く、平成16年度のノロウイルスによる感染症が発生していた時の検出率23.0%とほぼ同じであった。

今回再調査した施設は、調査時に感染症や食中毒が発生していない状態であったが、入居者はある程度のウェルシュ菌を保菌していることが確認された。

(2) 施設の拭取り検査

2施設100検体中11検体(11.0%)からウェルシュ菌が検出された。16年度の37.3%に比べると低い。トイレ、洗濯室等からの検出が目立った。また、施設Bからは、以前と同じ血清型のウェルシュ菌が多く検出された。

ウェルシュ菌は、高齢者福祉施設や病院等で、食中毒の集団発生とは異なる下痢症の原因となる事例が報告されている。また、ノロウイルスの感染症の発生時に、ノロウイルスと共に、同一血清型のウェルシュ菌が多数分離される事例が他にも報告されている。このような場合、ウェルシュ菌の関与について不明な点が多く、今回の再調査でも、当該施設で16年度に、ノロウイルス感染発生時に検出されたウェルシュ菌において、同一血清型が多かった理由を特定できなかった。

今回の調査で、ウェルシュ菌は、入居者のふん便由来で施設内の環境を汚染していることが強く示唆された。ノロウイルス等の感染症の発生時に、抵抗力の低下している入居者が、

施設内でウェルシュ菌に感染し、食中毒やその他の集団下痢症の原因となる可能性が十分考えられる。ウェルシュ菌の汚染を拡大させず、さらに食堂、厨房に汚染持ち込まないように、特にふん便由来の汚染が考えられるトイレ、洗濯室等の共用設備について常に重点的に清掃、消毒を行うことが重要である。

平成18年度事業計画拭取り箇所(施設A)12月19日(火)実施

番号	拭取り場所	ウエルシュ菌	血清型
1	調理場ノブ(内側)	調理場関係	(-)
2	調理場ノブ(外側)	調理場関係	(-)
3	シンク(仕込み用)使用中	調理場関係	(-)
4	シンク(食洗機横シンク)	調理場関係	(-)
5	従業員用トイレ(便座)東棟1階	調理場関係	(-)
6	従業員用トイレ(水洗ボタン)東棟1階	調理場関係	(-)
7	冷蔵庫取っ手(仕込み済み)	調理場関係	(-)
8	まな板(調理済み)	調理場関係	(-)
9	盛り付け台(2階食堂)	調理場関係	(-)
10	シンク盛り付け用(2階食堂)	調理場関係	(-)
11	1号棟2階食堂横出入り口床	環境	(-)
12	1号棟2階食堂横てすり	環境	(-)
13	1号棟2階2寮エアコン吹き出し口	環境	(-)
14	1号棟2階2寮タタミ(押入れ前)	環境	トキシソ生成菌 TW2
15	1号棟2階洗面所給湯器お湯のコック	環境	(-)
16	1号棟2階トイレ入口	環境	(-)
17	1号棟1階トイレ水栓レバー	環境	(-)
18	1号棟1階トイレ便座	環境	トキシソ生成菌 TW2,UT
19	1号棟2階トイレ水栓レバー	環境	(-)
20	1号棟2階トイレ便座	環境	トキシソ生成菌 TW2
21	洗濯室(職員用ドラム)	環境	(-)
22	洗濯室汚物洗濯用(シンクレバー)	環境	トキシソ生成菌 TW2
23	洗濯室汚物洗濯用(シンク)	環境	(-)
24	東棟洗濯室(洗濯機内部)	環境	トキシソ生成菌 TW2
25	東棟洗濯室(シンク)	環境	(-)
26	食堂床(入口付近の暖房の下)	環境	(-)
27	食堂(入口付近暖房吹き出し口)	環境	トキシソ生成菌 TW2
28	食堂入口の手洗い機	環境	(-)
29	食堂入口手洗いの補助棒	環境	(-)
30	食堂テーブル	環境	(-)
31	東棟2階216号室出入り口床	環境	(-)
32	東棟2階216号室ベランダへの出入り口取っ手	環境	(-)
33	東棟2階216号室トイレ水栓レバー	環境	(-)
34	東棟2階216号室トイレ便座	環境	トキシソ生成菌 TW2
35	東棟2階談話室冷蔵庫取っ手	環境	(-)
36	東棟2階談話室シンク	環境	(-)
37	東棟2階談話室テーブル	環境	(-)
38	東棟2階談話室エアコン吹き出し口	環境	(-)
39	1号棟1階東側114号室出入り口床	環境	(-)
40	1号棟1階東側114号室庭への出入り口取っ手	環境	(-)
41	女性用風呂入口取っ手	環境	(-)
42	女性用風呂エアコン吹き出し口	環境	(-)
43	女性用風呂冷水機上レバー	環境	トキシソ生成菌 TW2
44	女性用風呂混合水栓レバー	環境	(-)
45	女性用風呂排水溝ふた(浴槽内、カラン下)	環境	(-)
46	女性用風呂介助手すり(浴槽内)	環境	(-)
47	女性用風呂トイレノブ(内側)	環境	(-)
48	女性用風呂イス	環境	(-)
49	女性用風呂浴槽内側	環境	トキシソ生成菌 TW2
50	女性用風呂浴槽のお湯	水	(-)

番号	検体名 (検便検査 12月19日回収分)		ウエルシュ菌	血清型
1	入居者(女性、89)	検便	トキシン産生菌	TW62
2	入居者(女性、88)	検便	(—)	
3	入居者(女性、70)	検便	(—)	
4	入居者(男性、77)	検便	トキシン産生菌	TW2,62
5	入居者(男性、72)	検便	トキシン産生菌	UT
6	入居者(女性、76)	検便	(—)	
7	調理従事者(男性、41)	検便	(—)	
8	介護人(女性、53)	検便	(—)	
9	介護人(男性、52)	検便	(—)	
番号	検体名 (検便検査 12月22日回収分)		ウエルシュ菌	血清型
1	調理従事者(男性、23)	検便	(—)	
2	調理従事者(女性、58)	検便	(—)	
3	調理従事者(男性、22)	検便	(—)	
4	調理従事者(女性、36)	検便	(—)	
5	介護人(女性、53)	検便	(—)	
6	入居者(男性、74)	検便	(—)	
7	入居者(男性、79)	検便	(—)	
8	入居者(女性、95)	検便	(—)	
9	入居者(女性、73)	検便	(—)	
10	入居者(男性、86)	検便	(—)	
11	入居者(女性、85)	検便	トキシン産生菌	TW25
12	入居者(女性、81)	検便	(—)	
13	入居者(男性、66)	検便	(—)	
14	入居者(男性、64)	検便	(—)	

平成18年度八王子保健所独自事業(施設B)12月12日(火)実施

番号	拭取り場所		ウエルシュ菌	血清型
1	調理場出入口ノブ(内側)	調理場	(-)	
2	シンク内面(仕込み用)使用中	調理場	(-)	
3	1槽シンク(調理用)内面	調理場	(-)	
4	従業員用トイレ(便座)	調理場	(-)	
5	従業員用トイレ(内側ノブ)	調理場	(-)	
6	調理場出入口内側床	調理場	(-)	
7	盛付け台表面	調理場	(-)	
8	器具洗浄用1槽シンク内面	調理場	(-)	
9	調理済み食品用冷蔵庫取手	調理場	(-)	
10	調理済食品用ポリまな板	調理場	(-)	
11	樹○407室エアコン吹き出し口	環境	(-)	
12	樹○407室タタミ(入って左奥)	環境	(-)	
13	樹○407室トイレ(外側ノブ)	環境	(-)	
14	樹○4階給湯室共同冷蔵庫内中段棚	環境	(-)	
15	樹○4階娯楽室床	環境	(-)	
16	樹○207室エアコン吹き出し口	環境	(-)	
17	樹○207室タタミ(入って左奥)	環境	(-)	
18	樹○207室トイレ(外側ノブ)	環境	(-)	
19	樹○2階娯楽室(右側エアコン吹出し口)	環境	(-)	
20	樹○2階娯楽室左手前床	環境	(-)	
21	竹○323室ベット下床	環境	(-)	
22	竹○323室机上面	環境	(-)	
23	竹○323室洗面台照明上	環境	(-)	
24	竹○323室ドア取っ手(外側)	環境	(-)	
25	竹○3階 談話コーナー右シンク下床	環境	(-)	
26	竹○3階 談話コーナー右シンク内面	環境	(-)	
27	竹○421室ナースコール照明上	環境	(-)	
28	竹○421室テーブル上	環境	(-)	
29	竹○421室洗面台照明上	環境	(-)	
30	樹○4階職員用手前トイレ水栓レバー	環境	(-)	
31	樹○4階職員用手前トイレ便座	環境	(-)	
32	竹○1階入居者女性共用トイレ水栓レバー	環境	トキシン産生菌	TW47
33	竹○1階入居者女性共用トイレ便座	環境	トキシン産生菌	TW47
34	樹○入居者用洗濯室洗濯機ドラム内面	環境	(-)	
35	樹○3階職員用洗濯室手前洗濯機ドラム	環境	(-)	
36	竹○3階介助用洗濯室右洗濯機ドラム	環境	(-)	
37	竹○3階入居者用洗濯室中央洗濯機ドラム	環境	(-)	
38	竹○2階女性用風呂内車椅子	環境	(-)	
39	樹○3階トイレ汚物処理槽内面	環境	(-)	
40	竹○3階介助用洗濯室汚物処理槽内面	環境	(-)	
41	竹○1階食堂舞台右手前床	環境	(-)	
42	竹○1階食堂右から2台目手洗いレバー	環境	(-)	
43	竹○2階女性用風呂浴槽内面	環境	(-)	
44	竹○2階女性用風呂浴槽内のお湯	水	(-)	
45	樹○2階女性用風呂内ポリ椅子	環境	(-)	
46	樹○2階女性用風呂浴槽内面	環境	(-)	
47	竹○女性用風呂ポリ椅子	環境	(-)	
48	竹○女性用風呂浴槽内面	環境	(-)	
49	樹○女性用風呂浴槽内のお湯	水	(-)	
50	竹○女性用風呂浴槽内のお湯	水	(-)	

番号	検体名 (検便検査 12月12日回収分)		ウエルシュ菌	血清型
1	入居者(男性、72)	検便	(-)	
2	入居者(女性、81)	検便	トキシン産生菌	TW47
3	入居者(男性、74)	検便	(-)	
4	入居者(男性、69)	検便	(-)	
5	入居者(男性、75)	検便	トキシン産生菌	TW47
6	入居者(女性、70)	検便	トキシン産生菌	TW47
7	入居者(男性、76)	検便	(-)	
8	入居者(女性、74)	検便	(-)	
9	入居者(女性、83)	検便	(-)	
10	入居者(女性、82)	検便	(-)	
11	入居者(女性、86)	検便	(-)	
12	入居者(女性、79)	検便	(-)	
13	入居者(男性、71)	検便	(-)	
14	入居者(男性、70)	検便	(-)	
15	入居者(女性、77)	検便	トキシン産生菌	TW47
16	職員(女性、34)	検便	(-)	
17	職員(女性、30)	検便	(-)	
18	職員(男性、66)	検便	(-)	
19	職員(男性、28)	検便	(-)	
20	職員(女性、24)	検便	(-)	
21	調理従事者(男性、25)	検便	(-)	
22	調理従事者(女性、51)	検便	(-)	
23	調理従事者(男性、18)	検便	(-)	
24	調理従事者(女性、21)	検便	(-)	
25	調理従事者(女性、31)	検便	(-)	

2 八王子保健所

社会福祉施設におけるウェルシュ菌の汚染実態調査について（新規）

1 目的

平成 17 年 2～3 月にかけて、当所管内の高齢者施設 2 施設でノロウイルス集団感染が発生し、その際実施した細菌検査で、エンテロトキシン産生性ウェルシュ菌（以下ウェルシュ菌）が両施設の入所者・調理従事者・介護者の糞便及び拭取り検体（入所者の居室）から検出された。

2 施設において汚染実態が確認されたことから、これが高齢者施設一般の状況であるとするれば、重大な事態を招く恐れがあることが懸念される。このため、これらの施設における食中毒の発生を未然に防止するために、高齢者施設におけるウェルシュ菌による汚染実態調査を実施した。

2 調査方法

(1) 実施期間 平成 17 年 10 月～11 月

(2) 対象施設

管内高齢者施設 3 施設と、その対照として保育園、八王子保健所を選定して調査を行った。

高齢者施設 3 施設（以後、施設 A、施設 B、施設 C とする）

保育園 1 施設（以後、施設 D とする）

八王子保健所

(3) 調査方法

調理場、入居者の居室等の拭取り検査を実施するとともに、調理従事者や入居者の検便を行った。検便に協力してもらった調理従事者や入居者に対して、生活習慣などについてアンケートを行い、ウェルシュ菌による汚染の可能性について調査した。なお、調査は当所保健対策課感染症対策係との協力により実施した。

(4) 検査依頼機関

健康安全研究センター食中毒細菌研究室

3 検査結果

(1) 拭取り検査

5 施設 151 検体（施設 A 29 検体、施設 B 25 検体、施設 C 23 検体、施設 D 36 検体、八王子保健所 38 検体）を検査し、2 検体からウェルシュ菌が検出された（陽性率 1.3%）。内訳は、施設 C での 1 検体（陽性率 4.3%）、八王子保健所での 1 検体（陽性率 2.6%）であった。他は全て、ウェルシュ菌は陰性であった。

なお、詳細は別添 1 に示した通りである。

(2) 検便検査

調理従事者検便では、施設 A～D の 4 施設 42 名（施設 A 20 名、施設 B 8 名、施設 C 10 名、施設 D 4 名）に協力してもらい、2 名からウェルシュ菌が検出された（陽性率 4.8%）。内訳は、施設 A で 1 名（陽性率 5%）、施設 C で 1 名（陽性率 10%）であった。

入所者検便では、施設 A～C の 3 施設 45 名（施設 A 8 名、施設 B 22 名、施設 C 15 名）に協力してもらい、5 名からウェルシュ菌が検出された（陽性率 11.1%）。内訳は、施設 A で 2 名（陽性率 25%）、施設 B で 2 名（陽性率 9.1%）、施設 C で 1 名（陽性率 6.7%）であった。

なお、詳細は別添 2 に示した通りである。

(3) アンケート調査

今回の検便協力者の施設 A～D の 4 施設の調理従事者及び、施設 A～C の 3 施設の入所者について、生活習慣などに関するアンケートを行った。施設 D については、アンケートの協力を得られなかった。その結果、ウェルシュ菌陽性者のうち、施設 A の調理従事者 1 名については入所者との接触があり、園芸・農作業を行うこともあることが判明したが、これ以外は、ウェルシュ菌保菌に結びつく結果は得られなかった。

なお、そのアンケート内容は、別添 3 及び別添 4 の通りである。また、アンケートの集計結果を別添 5 に示した。

4 考察

入所者では 5 名からウェルシュ菌が検出されていることから、一般的には高齢者がウェルシュ菌を保菌しやすいと思われた。しかし、年齢ごとで有意差があるとは認め難かった。

拭取り検査では、全体的にウェルシュ菌の陽性率は低く、2 検体が検出されたのみであった。施設 C のトイレ前床（6F 22 号室）のウェルシュ菌は 3 種の血清型が混合検出された。このうち、TW47 は、同施設 6F 入所者の検便からも検出されているので、この入所者となんらかの関連が考えられた。拭取りに関しては、ウェルシュ菌検出率が全体的に低く、特徴ある傾向は見出しにくかったが、保健所での拭取りで検出されたのは、講堂の床であり、前日に心の健康フェスティバルが開催されたため、外来者の靴について持ち込まれたことが推察された。

アンケートでは、陽性者のうち、施設 A の調理従事者 1 名以外は、ウェルシュ菌保菌に結びつく結果は得られておらず、他の陽性者の保菌した経路について推察し難かった。

5 まとめ

本事業では、高齢者のウェルシュ菌検出がある程度みられるなどの傾向はみられたものの、特徴的なデータは得られなかった。本事業は、本年度が初めてであり、本調査結果を踏まえ、実施期間について検討を行うなどして、来年も継続して行う予定である。